

令和3年度をふりかいて

社会福祉法人志和大樹会は創設から22年が経過しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で20周年記念式典を先延ばししておりました。

令和3年9月の敬老会と併せ、来賓に熊谷泉紫波町長をご招待し、役員及び評議員出席の下、小規模ではございましたが記念式典を挙行いたしました。その中で、長年嘱託医師として利用者の健康保持に努められております志和診療所長 城戸正美先生と百寿の郷防災等活動にご貢献いただいている鷹背始 防災隊長に感謝状を贈呈しました。また、創設以来、職員として20年勤続の12人に対し、感謝状を贈呈し、慰労の意を表しました。

これまで、地域住民及び関係各位のご指導ご協力の下、町の福祉施設として成長を遂げて参りましたことに対し、深く感謝を申し上げ、さらなる発展を期した次第です。

今後、高齢者の増加と反比例し、不足する担い手の確保が大きな課題となっておりますが、なお一層の関係各位のご指導とご協力をいただき、社会福祉法人の役割を認識し、当法人の介護三訓「気配り・目配り・思い遣り」をモットーに、地域住民に安全安心をもって、ご利用していただける施設として、努力して参る所存ですので、よろしくお願い申し上げます。

さて、令和3年度の状況をふりかえりますと、未だに収束の道が見えない新型コロナウイルス感染症の防止対策に四苦八苦した1年であり、ご利用者・ご家族の皆様には感染防止対策や面会制限などにご理解、ご協力をいただいていることに心から感謝申し上げます。早急に収束することを願うものです。

各事業状況ですが、稼働率（1ヶ月平均利用率）は、特養ホーム96.5%（昨年比+1.6ポイント）以下、短期入所90.2%（+4.0）、デイサービス78.5%（+1.9）、居宅介護支援のケアプラン提供件数227.9件（+14.2件）、グループホーム95.6%（+6.1）となりました。以上のとおり全事業において、前年対比でプラスとなり、努力の成果がみられますが、特養と短期入所事業が収支差額マイナスとなっているので、業務の効率化等の見直しを図る必要があります。利用状況等の詳細は後記したので確認をお願いします。

令和4年度の大きな事業として、災害時における対策として、業務継続計画（BCP）の作成が義務付けられ、大地震等の災害時に地域・関係機関等と協力し、業務を遂行するための方策を作成することになります。業務の効率化等と併せ役職員一体となって課題に取り組んで参りますので、皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

令和4年3月31日
社会福祉法人志和大樹会
理事長 細川 博明